



# 地図帳で世界をもっと知ろう 1

奈良教育大学教授 岩本 廣美

平成20年3月に公表された新しい小学校学習指導要領・社会5学年の内容に、「世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置」が盛り込まれました。従前の学習指導要領よりも世界の学習に関しては一步踏み込んだ記述になっています。

この内容は、6学年の社会科や中学校社会科地理的分野の内容の基礎になる大切なものです。単なる暗記の対象にするのではなく、児童が興味を抱き、主体的に学習する手立てを工夫してみたいものです。

現行の『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』の裏表紙見返しにある3ページ構成「世界の国々」（p.74～76）を使えば、この新しい内容を先取りして多くのことを楽しく学ぶことができます。このページにはさまざまな工夫が凝らされていて、子どもたちは世界に関してさまざまな発見ができ、数多くの調べる手がかりをつかむことができるからです。以下、「世界の主な国の名称と位置」に関して、このページを活用して楽しく学習できる手立てを具体的に述べていきます。

## ●日本とつながりの深い国を探そう●

「世界の国々」のページから「主な国」を探すにはどうしたらよいでしょうか。小学校段階では「日本とつながりの深い国を探そう」という課題に置き換えることとなります。

日本と世界の国々とは、経済、文化、スポーツなどさまざまな分野でつながりを持っています。そのつながりをもっとも端的に表しているのは日本人学校の存在です。日本人学校が設置されていることは、それぞれの国に

まとまった数の日本人が家族で生活していることを示しているからです。また、日本人がそれらの国と関わってさまざまな仕事をしていることを示してもいます。

「世界の国々」のページでは、右上の凡例に示したように、校舎に日本の国旗を掲げた絵を記号にして「日本人学校のある都市」の位置を明記しています。ここでいう日本人学校とは、この冊子の2007年9月号でも述べましたが、全日制日本人学校のことです。平日は現地の学校に通い、土曜日のみ通学する補習授業校は含んでいません。そこで、まずは、どの児童にも解決が容易な課題として次のような投げかけをしてみましょう。

## ●「世界の国々」のページを見て、

### 日本人学校を探してみよう●

凡例の絵記号の意味を確認させたいので、この課題を示すことにより、児童は「世界の国々」のページ全体をなめ回すようにして、「日本人学校のある都市」を探すことは間違いありません。発見すれば「あった!」「ここにもあった!」と、どの児童も喜びの声を発することでしょう。オリンピック開催を間近に控えたペキンを発見して自慢をする児童も出て来るに違いありません。

ひとわり発見が達成できたら、すかさず、次の課題を投げかけてみましょう。



『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』 p.76

## ●では、日本人学校が2校以上ある

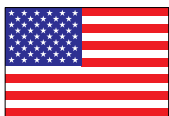
### 「国」を探してみよう●

この課題の投げかけによって、児童の目を今度は「国」に向けさせることができます。日本人学校が複数ある国は、それだけ日本とのつながりが深いと見ることができますが、はたして、中国、アメリカ、韓国、台湾（地域の扱い）、インドネシア、マレーシア、ベトナム、ブラジル、メキシコ、ドイツなどが挙げられます。これらの国および地域には、日本人観光客が数多く訪ねていることに気付く児童も現れることでしょう。

こうして、児童は無理なく興味を持って主な国の名称や位置を具体的に学習することができます。しかし、これで終わってしまっただけでは、学習に深まりがありません。そこで、次の段階として、リストアップした主な国のイメージを児童がおおよそ把握できるように、「世界の国々」のページを生かし、国旗やことばに目を向けさせてみたいものです。

### ●主な国の国旗を調べてみよう●

「世界の国々」のページには、世界のすべての国ではありませんが、130以上の国旗が掲載されています。先にリストアップした中で、試みに中国、アメリカ、韓国の国旗を調べさせてみましょう。国旗には、それぞれの国のメッセージが込められていますので、それを児童に予想させたいうえで、必要に応じて



アメリカ合衆国



中華人民共和国



大韓民国

他の参考書（例『世界の国旗図鑑』偕成社）で国旗のデザインの意味を調べさせると、それぞれの国のイメージを具体的に持てるようになるでしょう。たとえば、アメリカの国旗には横線と星が描かれていますが、意味を調べる前に、線や星の数を調べることはどの児童にもできますから、これは是非とも児童に取り組みせたいものです。星の数が50であることがわかれば、アメリカの詳しい地図（p.55～56）に数の意味を示すヒントが隠されていることを児童に伝えてみましょう。児童はやや戸惑うことと思いますが、アラスカ州とハワイ州を含めて50州であることに気付く児童も現れる可能性はあります。そのうえで、参考書で横線の意味を調べさせると学習はいつそう深化していくことでしょう。

### ●主な国のことばや服装を

#### 調べてみよう●

「世界の国々」のページには、主な国で使われている「こんにちは」にあたることばや服装例も示されています。

小学校の新しい学習指導要領では、高学年で「外国語活動」が導入されています。学校現場では、外国語として英語が採用されることが一般的と思われますが、このページを使って世界にはさまざまなことばがあることを児童に気付かせたいものです。また、先にリストアップした中国、アメリカ、韓国などで使われる挨拶のことばを「ニーハオ」などと言い合う「あいさつごっこ」などによって確認させ、児童相互で気軽に口に出させてみるのも面白いでしょう。

服装は、それぞれの国で使われているサンプル的なものですが、絵に示された服装が用いられている性別や年齢に着目させ、それぞれの国のようすを想像させてみると面白いでしょう。